

第3学年3組 音楽科学習指導案

【日時】令和7年7月24日(木) 9:20~10:05 【場所】音楽室 【指導者】井手 智恵美

本授業の参観の視点

「生活や社会の中の音や音楽」の中から郷土に伝わる音楽のよさを感じ取り、旋律や速度などの音楽を形づくっている要素と関連付けながら音楽づくりを楽しむ姿をご覧ください。

1 題材名 ちいきにつたわる音楽でつながろう

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、音色やリズムに注目して祭り囃子を鑑賞したり、ラ・ド・レの3つの音を使った旋律をつくったりすることで、郷土につたわる音楽のよさや美しさを感じ取ったり、親しんだりすることをねらいとしている。祭り囃子とは、神社祭礼を囃し立てる音曲の総称であり、山鉦・屋台・山車などに囃子の座が設けられ、祭り囃子はそこで演奏されることが多い。名称、旋律、楽器構成などは土地により異なり、各地で郷土色豊かな祭り囃子が奏でられる。本題材は、和楽器(長胴太鼓・締太鼓・鉦・篠笛)の楽曲を中心に引き上げ、鑑賞と音楽づくりの活動を関連させていくことで、普段あまり馴染みのない日本の郷土の音楽に親しみ、音楽づくりの発想を得ることができる題材である。鑑賞の学習では、「神田囃子」「祇園囃子」「ねぶた囃子」の3つの教材曲を取り上げる。「神田囃子」は東京都神田明神の「神田祭」で演奏される祭り囃子であり、5人囃子の形態で演奏される。その中の「投げ合い」は、祭礼の神輿渡御の際に演奏される曲であり、にぎやかでうきうきした曲調が特徴である。「祇園囃子」は、京都府八坂神社の「祇園祭」で演奏される祭り囃子である。囃子方や太鼓よりも鉦奏者が多いことが特徴であり、鉦の音色が特徴的な祭り囃子である。「ねぶた囃子」は青森市の「青森ねぶた祭」で演奏される祭り囃子である。山車の進行に合わせて歩きながら演奏され、大所帯でにぎやかな祭り囃子である。それに加え、鑑賞教材の一つに郷土のお祭りの音楽を取り上げたり、児童の住む地域の音楽を集めたりすることで、より興味・関心をもって学習を進めることができる。これらの学習を通して、日本の伝統的な楽器や郷土に伝わる音楽に親しみながら音楽をつくり、表現することの楽しさを味わうことのできる題材である。

(2) 児童について

児童はこれまでに、「茶つみ」や「おちゃらか」などのわらべ歌を通して日本の音楽に親しんでおり、2年時には「おまつりの音楽」の学習において、反復を活用しながら、太鼓の口唱歌を組み合わせてリズムをつくる活動を行っている。

その一方で、アンケートで「自分の住んでいる地域のお祭りに参加したことがある」と答えた児童は34名中11名(33%)ほどしかおらず、その多くが盆踊りなどを見た経験のみであり、実際に参加したり演奏したりしたことがあると回答した児童はいなかった。また、祭り囃子を彩る楽器の中で、実際に音を聞いたことがあると答えた楽器は、太鼓30名(88%)、笛2名(5%)、鉦0名であった。しかし、全員が「見に行ったことがある」と答えた佐賀市で実施される「栄の国まつり」の中では「神輿」や「総踊り」などが行われており、太鼓や笛、鉦の音色を児童も聞いたことがあるはずである。このことから、児童の中でお祭りの音楽の定義は不明確であり、生活や社会の中のお祭りの音楽に気付かないまま、無自覚に聴取している状態であると言える。だからこそ、本題材で地域に根付いた様々なお祭りの音楽に触れ、そこから学んだことを生かしながら音楽づくりを行うことで、郷土の音楽のよさや美しさを実感することができる。本題材での学びを通して、自覚的にお祭りの音楽を聴取し、「生活や社会の中の音や音楽」と「授業の中での音や音楽」とをよりつなげて考えることができるようにしたい。

(3) 指導について

聞いたことのあるお祭りの音楽を想起する活動を導入とし、第一次では音楽の雰囲気が異なる「神田囃子」「祇園囃子」「ねぶた囃子」を比較聴取する。その中で、それぞれの祭りの雰囲気の違いを感じ取ったり、祭りの様子を想像したりしながら、祭り囃子で使われる楽器の音色や音楽の特徴に気付くことができるようにする。また、音楽を味わうための手立てとして口唱歌を活用することで、お祭りの音楽の音色やリズムをより感じ取ることができるようにしたい。さらに、「祇園囃子」「神田囃子」「ねぶた囃子」以外にもたくさんの祭り囃子が存在することを伝え、地域の音楽を調べたり、サウンドライブラリーに収集したりする活動を設定することで、「生活や社会の中の音や音楽」を実感できるようにする。調べ、収集したお祭りの音楽を共有し、似ている点や異なる点を見つけ合うことで、使われている楽器の音色やリズムと曲想との関わりなどの特徴の違いを感じ取りながら郷土の音楽に親しみ、「生活や社会の中の音や音楽」が「授業の中での音や音楽」とつながることに気付くことができるようにしたい。

第二次では、ラ・ド・レの3つの音とリズムを使い4分の4拍子で2小節の旋律をつくり、つくった旋律をつなげて8小節の旋律をつくる活動を行う。つくった旋律をリコーダーで演奏する際には、地域の祭り囃子の太鼓の音源を速度やリズム別に複数準備しておき、つくった旋律と組み合わせることができるようになることで、旋律だけではなく祭り囃子の音色や速度、リズムなどの特徴にも目を向けながら、音楽づくりができるようにする。このように、サウンドライブラリーに収集したお祭りの音楽を確認しながらまとまりのある旋律をつくったり、つくった旋律をつなげて演奏したりすることで、「生活や社会の中の音や音楽」と「授業の中での音や音楽」とをつなげ、お祭りの音楽に親しみ、音楽を形づくっている要素と関連付けながら音楽づくりができるようにしたい。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

ステージD 「実生活・実社会」

唐津くんちのお囃子は、走っている時と、休憩している時ではお囃子のスピードが違ったな。速さの変化が、お祭りを盛りあげることに繋がっているのかな。



生活や社会の中の音や音楽からお祭りの音色や速度、リズムなどの特徴を捉え、そのよさを感じながら祭り囃子をつくっている。(社会での生活【思考力・判断力・表現力等】)

→ 調べた地域の祭り囃子をサウンドライブラリーに収集し、確認しながら学習が進められるようにする。

ステージB 「同教科」

もっとうきうきするようなお囃子をつくりたいな。旋律の上がり下がり意識して、曲の山をつくってみようかな。



旋律の特徴が生み出すよさを感じ取ったり、感じ取ったことをもとに自分の思いや意図をもって祭り囃子を考えている。(音楽科「せんりつの重なりをかんじとろう・鑑賞」【思考力、判断力、表現力等】)

音色やリズム、速度などに注目して、祭り囃子の特徴を感じ取ったり、感じ取ったことを旋律づくりに活かしている。(音楽科「祭りばやしのとくちようをかんじとろう・鑑賞」【思考・判断・表現力等】)

ステージA 「同題材・領域」

祭り囃子を聞くとうきうきするな。リズムや速度が変わると感じ方が変わったな。つくった旋律にも色々な速度の太鼓のリズムを組み合わせしてみたいな。



音色やリズム、速度などに注目して、祭り囃子の特徴を感じ取ったり、感じ取ったことを旋律づくりに活かしている。(音楽科「祭りばやしのとくちようをかんじとろう・鑑賞」【思考・判断・表現力等】)

→ 音楽を形づくっている要素に注目している児童を価値付けることで、要素に注目しながら音楽を聞いたり、つくったりできるようにする。

単元のゴール：
思いが伝わるような
祭り囃子をつくろ
う。

ステージC 「他教科等」

3小節目に一番盛り上がるような山場をつくって、そこに向かって盛り上がるように旋律を組み合わせよう。最後は終わる感じをしっかりと出したいな。



「はじめ」「中」「終わり」や「山場」といった物語文の構成を意識しながら、まとまりのある旋律をつくろうとしている。(国語科「まいごのかぎ」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 旋律のつながりやまとまりを意識できるように1小節分の旋律カードを準備し、カードを入れ替えたり組み合わせたりしながら4小節の旋律をつくることができるようにする。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

音色やリズム、速度などの音楽を形づくっている要素に注目して、祭り囃子を鑑賞したりラ・ド・レの3つの音を使った旋律をつくったりすることで、郷土につたわる音楽のよさや美しさを感じ取ったり、親しんだりできるようにする。

(2) 評価規準

ア 日本の楽器の音色や、祭り囃子のリズムや速度などの特徴と曲想との関わりに気付き、思いや意図にあった表現をするために必要な音楽の仕組みを用いながら、旋律をつくっている。

【知識・技能】

イ 祭り囃子の音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表現したらよいか思いや意図をもっている。

【思考・判断・表現】

ウ 祭り囃子の特徴に関心をもって聞いたり、旋律をつくったりしながら、郷土に伝わる音楽のよさや美しさを感じ取ろうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

4 教材曲について

表1 教材曲に関する期待できる学び

教材曲名	期待できる学び
「神田囃子」	祭り囃子の中でも5人囃子の形態をとっているため、それぞれの楽器の音色に注目して聞くことができる。特に締め太鼓のリズムが特徴的であり、リズムや旋律の繰り返しが多く、旋律の反復や変化を捉えやすい教材である。
「祇園囃子」	「祇園囃子」は「コンチキチン」という独特の鉦の音色が特徴的であり、鉦の音色をベースに笛が旋律を重ねていく。旋律を彩る笛の音色や、笛の旋律と太鼓・鉦の旋律の重なり注目して聞くことで、音色や重なりを捉えることができる教材である。
「ねぶた囃子」	「ねぶた囃子」は、はずむようなリズムの2拍子の音楽であり、2小節で1フレーズ、7つのフレーズで1まとまりの曲である。7つのフレーズのまとまりを繰り返し演奏するため、旋律のまとまりや反復を捉えやすい教材である。

5 題材の指導計画（全7時間 本時7／7時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一	1	○音色やリズム、速さに注目しながら「神田囃子」「祇園囃子」「ねぶた囃子」を比較聴取し、祭り囃子の特徴に気付く。	・比べながら聞くための視点を示したワークシートを準備することで、音色やリズムの違いや祭り囃子の特徴に気付くことができるようにする。	◆日本の楽器の種類や音色、祭り囃子のリズムや速度などの特徴と曲想の関わりに気付いている。	A B
	2	○楽器の音色やリズムをまねたり、締め太鼓のリズムを口唱歌で歌ったりして、祭り囃子の音色やリズムに親しむ。	・何種類の楽器が使われているかを意識しながら聞くように促すことで、音色に着目しながら聞くことができるようにする。	◆祭り囃子の音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。	
	3	○地域に伝わる祭り囃子を調べたり、サウンドライブラリーに収集したりする。	・いくつかの事例を教師が示すことで、調べ、収集する祭り囃子の音楽の定義を明確にする。	◆地域の祭り囃子の特徴に関心をもって調べようとしている。	A
	4	○調べ、収集した祭り囃子を共有し、似ている点や異なる点を見付けながら、祭り囃子の特徴を感じ取る。	・収集したお祭りの音楽を共有する際に前時と同じ視点を示すことで、使われている楽器の音色やリズムの違いや祭り囃子の特徴を感じ取ることができるようにする。	◆地域の祭り囃子の音色、リズム、速度などに目を向けながら聞き、その特徴について考えている。	B D
二	5	○ラ・ド・レの3つの音とリズムを使い4分の4拍子で2小節の旋律をつくる。	・サウンドライブラリーに収集したお祭りの音楽を確認しながらまとまりのある旋律をつくったり、つくった旋律をつなげて演奏したりするように促すことで、「生活や社会の中の音や音楽」に目を向けながら音楽づくりに取り組めるようにする。	◆日本の楽器の音色や、祭り囃子の音楽のリズムや速度などの特徴と曲想との関わりに気付き、思いや意図にあった表現をするために必要な音楽の仕組みを用いながら、旋律をつくっている。	A B C D
	6	○作った旋律をつなげ、音楽のまとまりを意識してつなげ方を工夫しながら8小節の旋律をつくる。	・音楽を形づくっている要素を使って音楽づくりをしている児童を価値付けることで、みな音楽を形づくっている要素に目を向けられるようにする。	◆祭り囃子の音楽の旋律、リズム、速度、などの特徴と関連付けながら、どのように表現したらよいか思いや意図をもっている。	
	7	○つくった旋律を郷土の祭り囃子の太鼓のリズムに合わせて演奏する。	・伴奏として郷土の祭り囃子の太鼓のリズムを複数準備しておくことで、旋律だけではなくお祭りの音楽の音色や速度、リズムなどの特徴にも目を向けながら、音楽づくりができるようにする。	◆音楽づくりを通して、郷土に伝わる音楽のよさや美しさを感じ取ろうとしている。	
	本時			【主】	

5 本時の指導（7／7）

(1) 指導目標

サウンドライブラリーの活用を通して郷土に伝わる音楽のよさを感じ取り、音楽を形づくっている要素と関連付けながら、思いや意図をもって祭り囃子をつくることができるようにする。

(2) 評価規準

イ 祭り囃子のリズムや速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、思いや意図にあった表現をするために必要な音楽の仕組みを用い、祭り囃子を考えている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（□）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 前時につくった旋律を演奏し、本時のめあてを確認する。 (5分)	1 前時に児童がつくった旋律を複数演奏し、前時までの学習を想起できるようにする。
思いが伝わるような祭り囃子をつくろう。	
2 「〇〇囃子のような〇〇の祭り囃子」をつくる。 (25分)	2-(1)「〇〇囃子（自分で選んだ郷土の祭り囃子）のような〇〇（郷土の祭り囃子を聞いて感受したこと）の祭り囃子をつくる」という目標を立てることで、思いを整理できるようにする。
(1) どうすれば思いにあった祭り囃子になるか考え、旋律をつくる。	2-(2)鑑賞で学習した音楽を形づくっている要素を使って音楽づくりをしている児童を価値付けることで、 <u>みなが音楽を形づくっている要素に目を向けることができるようにする。</u> （AB）
・唐津くんちのお囃子のように、もっとうきうきするような旋律をつくりたいな。旋律の上がり下がり意識して、曲の山をつくってみようかな。	2-(3)旋律のつながりやまとまりを意識できるように1小節分の旋律カードを準備し、カードを入れ替えたり組み合わせたりしながら、旋律をつくることができるようにする。
・3小節目に一番盛り上がるような山場をつくって、そこに向かって盛り上がるように旋律を組み合わせよう。最後は終わる感じをしっかりと出したいな。	2-(4)サウンドライブラリーに収集した祭り囃子を確認しながら旋律をつくり、演奏するように促すことで、「生活や社会の中の音や音楽」に目を向けながら音楽づくりに取り組めるようにする。（D）
・唐津くんちの祭り囃子のように勢いのある音楽にするためには、速度を速くすればいいのかな。つくった旋律に合わせて太鼓のスピードをもっと速くしたいな。	2-(5)伴奏として地域の祭り囃子の太鼓のリズムを複数準備しておくことで、 <u>旋律だけではなく祭り囃子の音色やリズム、速度などの特徴にも目を向けながら、音楽づくりができるようにする。</u> （D）
(2) つくった旋律と太鼓の伴奏とを組み合わせながら演奏する。	2-(6) (1)～(3)の活動を繰り返すように促すことで、試行錯誤しながらより自分の思いや意図に近づけることができるようにする。
・みんなで調べた地域の音楽の中で、一番うきうきしたお囃子の太鼓のリズムに合わせて考えた旋律を演奏してみよう。	◆ 郷土の祭り囃子の音楽のリズムや速度、旋律などの特徴に気づき、思いや意図にあった表現をするために必要な音楽の仕組みを用いながら、祭り囃子を考えている。 【思・判・表】
・お祭りが盛り上がる時にお囃子のスピードが上がっていく祭り囃子があったな。徐々に伴奏のスピードを上げてみたいな。	B リズム、速度、旋律などの音楽を形づくっている要素と関連付けながら、自分の思いや意図にあった祭り囃子を考えている。
(3) つくった旋律を友達と聴き合い、思いにあった祭り囃子になるように、再考する。	C→ リズム・速度・旋律などの具体的な要素の一つを示し、その要素に注目して郷土の祭り囃子を聞き、その特徴をまねして祭り囃子をつくるように促す。
・私は盛り上がるお囃子にするために旋律に注目したけれど、〇〇さんのように速度に注目して組み合わせると、もっと「うきうきする」祭り囃子になりそう。私も速度を変えてみよう。	3-(1)いくつかの祭り囃子をピックアップし、聞いたり一緒に演奏したりする時間を設定することで、祭り囃子のよさを実感できるようにする。
3 つくった祭り囃子を発表して全体で共有する。 (10分)	3-(2) <u>祭り囃子を考えて児童に、自分の思いを祭り囃子で表現するためにどんなところを意識したかを尋ねたり、聞いている児童になぜ思いに合った祭り囃子になっているかを問うたりすることで、音楽を形づける要素に目を向けられるようにする。</u> （ABD）
・みんなで一緒に演奏すると、より盛り上がるな。もっと色々な音色を重ねてみたいな。	4-(1)音楽を形づくっている要素を使いながら振り返りをするように声をかける。
4 本時の学習を振り返る。 (5分)	4-(2)振り返りで教師が期待する子どもの姿を価値付けることで、その良さを実感し周りに広められるようにする。
・速度を速くすればいいと思っていたけれど、友だちと一緒に何度も旋律を工夫することで、自分の考える音楽に近づいた。	
・友達のアドバイスをもとに速度を速くしてみると、お祭りの盛り上がる感じが表現できた。	
・もっと速度は速い方がいいと思ったが、「ゆっくり進んでいるとき」ならば、このくらいの速度でもいいのかもと思った。	

